

## 本時のねらい

- ・色や形づくりを楽しむ。
- ・友だちの作品の鑑賞を通じ、自分の意見を発表する。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

花火という言葉だけではイメージしにくい児童にとって、動画等の視覚支援を行うことで集中して見ることができ、イメージしやすい。Chromebook の描画キャンパスを使うことで、手を汚すことやクレヨンのおい等を気にせず作品を制作することができ、すぐに消すことができるので、何度でも挑戦できる。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・描画キャンパス
- ・電子黒板
- ・ジャムボード

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (8分)	○花火の映像をみて、本時のめあてを確認する。 ・「花火の絵をかく」 ・「お互いの絵を見て感想を伝える」  【写真1】	・周囲に注意力が散漫しないよう、各自の端末で動画を見て、花火のイメージを膨らませる。 ・あらかじめ用意していた絵をテンポよく電子黒板に提示する。
展開 (32分)	○花火の絵の描き方の説明を理解する。 ・にじいろにぬる（下地） ・くろをぬる（上塗り） ・ひっかいて下のいろをだす。（スクラッチ） ○制作活動 ・花火の絵を制作する。  【写真2】  ○ジャムボードに制作した絵を画像として保存する。 ○全員の作品を順番に電子黒板に映し、その作品についての感想を言い合う。  【写真3】	・電子黒板で提示することで、手順が理解できる。  ・描画キャンパスを使うことで、手を汚すことなく制作できるので、感覚過敏のある児童に受け入れられやすい。また、一つ前の工程に戻りやすく、繰り返し挑戦できる。 ・実物より大きく表示することができ、児童が自分自身で細部まで確認できる。 ・全体で共有、発表することで、絵に関する感想や意見、どこの部分にこだわったか、他者がどういう視点で自分の作品を見ているかの気づきになる
まとめ (5分)	○めあてのおさらいをする。 ・二つのめあてが、できたかどうかを振り返る。	

## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



【写真1】動画を見て、花火のイメージを膨らましている場面



【写真2】制作活動 黒い色を消しゴムの機能でスクラッチしている場面



【写真3】電子黒板に映された、他の児童の作品に対して感想を発表している場面

## 児童生徒の反応や変容

今回の制作活動は、作品を制作する工程を理解して色や形づくりを楽しみながら制作することができた。間違えた線を簡単に消してやり直せるので、日ごろ、制作がなかなか進まない子ども、積極的に描いていたのが印象的だった。併せて、できた作品を発表し合うことで、相手の意図を受け止め、自分の考えを伝えることができた。また、教材そのものを楽しんだことで、通常の学級で、クロームブックを使った学習の後の自由時間に、自主的に新たな作品を制作した児童が複数名いた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

今回の制作活動において、3つの良さを実感し、授業を行った。1つめは、感覚過敏のある児童にとって描画キャンパスを使うことで気にせず制作することができる。2つめは、すぐにやり直しができるので、繰り返し挑戦しやすい。3つめは、準備物等が少ないので制作に多く時間を取ることができる。他にもタブレットを活用することで、制作した作品と写真との連動が図りやすいので、様々なアレンジを楽しむことができる。また、油粘土を使って作品を作り、写真を撮って描画キャンパスで着色することができる。制作に苦手意識がある児童にとって取り組みやすく自己肯定感を伸ばせる機会を設定できる。